

### 1 評価目的

- ・「事業の実施状況の確認」、「目標達成状況」等の評価を行うことによって、より効果的、効率的に運行されることを目的とする。

### 2 評価の流れ

|      |                            |                           |                             |
|------|----------------------------|---------------------------|-----------------------------|
| 日程   | 平成30年6月18日<br>(愛知県バス対策協議会) | 令和2年1月15日<br>(愛知県バス対策協議会) | 令和2年2月18日<br>(国による第三者評価委員会) |
| 対象路線 | 幹線系統補助路線                   | 幹線系統補助路線                  | 国庫補助対象路線                    |
| 実施内容 | 計画申請                       | 一次評価<br>(自己評価)            | 二次評価<br>(有識者による第三者評価)       |

※稲武地域バス・藤岡地域バスが該当する地域バス国庫補助路線(地域内フィーダー系統)については、令和元年12月13日の第3回豊田市公共交通会議にて評価を実施済。

### 3 令和元年度 豊田市地域間幹線系統 国庫補助対象路線の評価 (平成30年10月～令和元年9月)

#### 【第2回愛知県バス対策協議会(令和2年1月15日)における一次評価】

| 系統                | 収支率   | 利用者<br>(目標) | 利用者<br>(実績) | 状況 | 考察と今後の改善  | 国庫補助金額      |
|-------------------|-------|-------------|-------------|----|---|-------------|
| 藤岡・豊田線<br>(加納経由)  | 35.5% | 98,804人     | 105,132人    | 達成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学利用者増等より目標達成</li> <li>・観光地(猿投山)と連携した利用促進を展開</li> </ul>       | 6,740,000円  |
| 小原・豊田線            | 51.5% | 200,850人    | 198,861人    | 未達 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光対応展開等により利用者増</li> <li>・バス停増設、上屋整備など利便性向上を推進</li> </ul>      | 19,260,000円 |
| 藤岡・豊田線<br>(西中山経由) | 62.4% | 114,467人    | 115,135人    | 達成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・宅地開発による沿線人口増で利用者が増加</li> <li>・ダイヤ改正、区画整理に伴う路線改編を検討</li> </ul> | 6,655,000円  |
| 旭・豊田線             | 26.6% | 87,577人     | 95,498人     | 達成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学利用増等により目標達成</li> <li>・広瀬乗り継ぎを考慮したダイヤ改正を検討</li> </ul>        | 11,080,000円 |
| さなげ・足助線           | 29.5% | 195,670人    | 200,529人    | 達成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学利用増等により目標達成</li> <li>・広瀬乗り継ぎを考慮したダイヤ改正を検討</li> </ul>        | 18,691,000円 |
| 下山・豊田線            | 50.1% | 135,019人    | 155,584人    | 達成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年利用者の伸びが低下傾向</li> <li>・松平郷など観光地と連携した利用促進を展開</li> </ul>       | 11,226,000円 |
| 高岡ふれあい<br>路線②     | 27.0% | 124,746人    | 118,958人    | 未達 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・通勤利用減などで目標未達成</li> <li>・土橋駅までの延伸、基幹バス化などを検討</li> </ul>        | 7,499,000円  |



地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年 1月 15日

協議会名:愛知県バス対策協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

| 【交通圏】 | ①補助対象事業者等 |          | ②事業概要                 |                | ③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況  | ④事業実施の適切性 | ⑤目標・効果達成状況                                      |   |          |             |            |           | ⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割 | ⑦事業の今後の改善点(特記事項を含む) |   |   |
|-------|-----------|----------|-----------------------|----------------|--|-----------|---|---|----------|-------------|------------|-----------|------------------------|---------------------|---|---|
|       | 運営主体      | 運営事業者    | 系統名                   | 運行区間           |  |           | A<br>計画目標値(利用率)<br>B<br>実績<br>C<br>目標値率(%)にも満たず | 輸送量(人)  |          |             |            | 収支率(%)    |                        |                     |   |   |
|       |           |          |                       |                |  |           |   | R1<br>計画  | R1<br>実績 | (平均)<br>乗車率 | (運行)<br>回数 | H30<br>実績 |                        |                     | R1<br>実績  |   |
| 10豊田  | 豊田市       | 名鉄バス株    | おいでんバス(旭・豊田線)         | 小笠原～豊田市        | 交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握と沿線やなでの飲み物サービスを実施して実施。また、9月から1日乗車券を販売し、観光客のバス利用促進を図った。また、バス情報のGTFS化を行った。   | A         | 補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。   | 目標:87,577<br>実績:95,498(109.0%)<br>※前年度比104.0%   | 32.7     | 34.8        | 3.2        | 10.9      | 26.5                   | 26.6                | 豊田市と旧旭町を跨ぐ利用者は、1日平均35人で全体の10.5%と低い数値にとどまっているものの、市外から市中心部への通勤・通学手段として重要な役割を果たしている。また、赤瀬バス停で乗降する利用者も一定数あり、バスを乗り継ぐ利用者もいると思われる。<br>【地域的・フィーダー的系統】<br>旭地域バス、小原地域バス、石野地域バス、藤岡地域バス         | 本路線は様々な観光施設や豊かな自然環境を有する地域を運行しており、こうした環境を生かした利用促進策を講じる必要がある。<br>赤瀬バス停での乗り継ぎを考慮したダイヤ改正の検討、沿線やなでの飲み物サービスを継続実施、1日乗車券の販売を次年度以降も行う予定。                     |
| 10豊田  | 豊田市       | 名鉄バス株    | おいでんバス(小原・豊田線)        | 上仁木～豊田市        | 交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握。また、9月から1日乗車券を販売し、観光客のバス利用促進を図った。また、バス情報のGTFS化を行った。  | A         | 補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。   | 目標:200,850<br>実績:198,861(99.0%)<br>※前年度比99.6%   | 78.8     | 82.3        | 7.1        | 11.6      | 50.5                   | 51.5                | 豊田市と旧小原村を跨ぐ利用者は、1日平均66人で全体の17.6%と低い数値にとどまっているものの、加茂丘高校～四郷間の利用が非常に多く、通勤・通学手段だけでなく鉄道の乗り換えとしても重要な役割を果たしている。<br>【地域的・フィーダー的系統】<br>小原地域バス、藤岡地域バス   | 上仁木～加茂丘高校間は利用者が少なく、平日では日中時、休日では1日通して利用者が少ないため、鉄道駅への接続(愛知環状鉄道権津駅)と四郷地区区画整理に対応した経路の変更検討(加茂丘高校前)バス停に上屋設置による待合環境の改善。また、令和元年度の取組でもある1日乗車券の販売を次年度以降も行う予定。 |
| 10豊田  | 豊田市       | 名鉄バス株    | おいでんバス(藤岡・豊田線(西中山経由)) | 藤岡中学校前～西中山～豊田市 | 交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握と交通結節点である藤岡支所の整備を行った。また、9月から1日乗車券を販売し、観光客のバス利用促進を図った。また、バス情報のGTFS化を行った。  | A         | 補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。   | 目標:114,487<br>実績:115,135(100.6%)<br>※前年度比98.1%  | 47.1     | 49.4        | 6.5        | 7.6       | 62.0                   | 62.4                | 豊田市と旧藤岡町を跨ぐ利用者は、1日平均277人で全体の64.7%を占めている。「加茂丘高校」での乗降が多く、通勤に利用していることがうかがえる。<br>また、「権津駅」「四郷」「豊田市」バス停での乗降も多く、鉄道へ乗り継ぎをしていると思われる。<br>【地域的・フィーダー的系統】<br>藤岡地域バス                             | 鉄道駅への接続と四郷地区区画整理に対応した路線の検討。<br>令和元年度の取組でもある1日乗車券の販売を次年度以降も行う予定。<br>交通結節点(藤岡支所)の整備が完了予定。   |
| 10豊田  | 豊田市       | 豊栄交通株    | おいでんバス(さなげ・足助線)       | 豊田厚生病院～百年草     | 交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握を行った。平成30年4月より増便し、朝の赤瀬バス停での乗りこぼしが解消した。また、1日乗車券の販売や沿線の広瀬やなでのバス利用者に対する飲み物サービスを実施し、利用促進に努めた。                            | A         | 補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。   | 目標:195,670<br>実績:200,529(102.5%)<br>※前年度比102.3% | 79.8     | 70.0        | 4.3        | 16.3      | 29.2                   | 29.5                | 市町村を跨いで利用者は1日平均259人と全体の約37%にとどまっているものの、中山間地域から市中心部への通勤・通学手段として重要な役割を果たしている。また、近年は市中心部から足助地区の高校へ通学する利用者も増えている。<br>【地域的・フィーダー的系統】<br>(豊田市)保見地域バス、(豊田市)石野地域バス、(豊田市)足助地域バス、(みよし市)さんさんバス | 沿線高校生の通学利用や観光シーズンの利用者数により、一部の便で乗りこぼしが発生しており、大型バス車両への積込回数を増やした。<br>また、沿線観光地への利用促進に向けた地域連携を図っていく。<br>「清水駅前」バス停に上屋を設置し、快適な待合環境を整備する。                   |
| 10豊田  | 豊田市       | 豊栄交通株    | おいでんバス(下山・豊田線)        | 大沼～豊田市         | 交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握を継続して実施するとともに、9月から1日乗車券を販売し、観光客のバス利用促進を図った。  | A         | 補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。   | 目標:135,019<br>実績:155,584(115.2%)<br>※前年度比113.4% | 70.7     | 74.2        | 6.4        | 11.6      | 50.8                   | 50.1                | 豊田市と旧下山村を跨ぐ利用者は、1日平均147人で全体の25.9%を占めている。「観音堂」バス停や「豊田市」バス停の利用が多く、通勤・通学手段として利用されていることがうかがえる。<br>【地域的・フィーダー的系統】<br>(名鉄バス)矢並線、(豊田市)とよたおいでんバス(旭・豊田線、藤岡・豊田線、保見・豊田線など)                     | 利用者の増加を目指すため、通勤・通学等の日常利用以外の観光目的での利用を促進していく必要がある。沿線の松平郷などの観光地と連携した利用促進を検討する。令和元年度の取組でもある1日乗車券の販売を次年度以降も行う予定。   |
| 10豊田  | 豊田市       | 豊栄交通株    | おいでんバス(加納・豊田線)        | 藤岡支所～豊田市       | 交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握を継続して実施するとともに、9月から1日乗車券を販売し、観光客のバス利用促進を図った。また、交通結節点である藤岡支所の整備を行った。   | A         | 補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。   | 目標:98,804<br>実績:105,132(106.4%)<br>※前年度比102.8%  | 44.0     | 49.7        | 4.4        | 11.3      | 32.8                   | 35.5                | 豊田市と旧藤岡町を跨ぐ利用者は、1日平均131人と全体の38.1%を占めている。市外から市中心部への通勤・通学手段として利用されている。また、昼間時においても、市外から市中心部への利用が一定数みられ、生活交通として重要な役割を果たしている。<br>【地域的・フィーダー的系統】<br>藤岡地域バス                                | 平日では日中時、休日では1日通して利用者が少ないため、地域センター、猿投神社及び猿投山の登山口など沿線施設や観光地と連携した利用促進策の検討を図るとともに、引き続き1日乗車券の販売を次年度以降も行う予定。  |
| 10豊田  | 豊田市       | 高岡ふれあいバス | 高岡ふれあいバス(路線2)         | 上丘町～知立駅        | 利便性向上を目的に土曜駅監禁がなくても市中心部への延伸も検討に当該系統の方向性について検討を行った。また、利用促進の取組として前年ふれあいまつりでのPRブースに出展し、バスを展示するなど利用促進活動を実施した。知立駅ロータリーでバス発着が滞りないように、知立市ミニバスのダイヤを調整した。 | A         | 補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。   | 目標:124,746<br>実績:118,958(95.3%)<br>※前年度比99.2%   | 43.2     | 41.7        | 2.9        | 14.4      | 26.1                   | 27.0                | 市を跨ぐ利用者は、1日平均306人で全体の93.8%と利用者の大部分を占めている。通勤・通学や送迎・買い物等の手段として重要な役割を果たしていると考えられる。<br>【広域的・幹線的系統】<br>名古屋鉄道、(豊田市)高岡ふれあいバス、(知立市)ミニバス   | 土曜駅又は豊田市中心部への延伸や高齢バス化の方向性の検討を始め、道路渋滞等の現状を踏まえた遅れの少ないダイヤの策定に向けた検討等を行う必要がある。また、沿線市・事業者と情報共有を図りながら、本路線の周知等に努める。   |

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年 1月 15日

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| 協議会名:                       | 愛知県バス対策協議会   |
| 評価対象事業名:                    | 陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)   |
| 地域の交通の目指す姿<br>(事業実施の目的・必要性) | 鉄軌道網の整備が進み基幹的公共交通網は維持されているが、自動車分担率が高い地域であることを踏まえた上で、複数市町村を跨ぐ広域的・幹線的な公共交通網の維持・確保を図る。<br>実施に当たっては、乗合バス事業者等運営主体と沿線市町村が協力して目標設定、利用促進、利便性・生産性向上検討を行い、事業評価にあたっては、運営主体、沿線市町村が情報交換、意見交換を行って、路線の状況を共有化。 |